

Bridge

vol.1

金城学院大学 父母会会報[ブリッジ/創刊号] 2005.7

KINJO GAKUIN UNIVERSITY Parents' Association Report





学長

柏木哲夫
Tetsuo Kashiwagi

学生部長

人間科学部 心理学科社会心理学専攻 教授

宗方比佐子
Hisako Munekata

父母会会報【Bridge】創刊記念 インタビュー

2005.6.7 金城学院大学校内にて取材

伝統と革新… その融合を目指す金城学院大学の 視線の先にあるものは。

金城学院大学は、2005年度から「強く、優しく。」を新たなスローガンに掲げ、次代を担う女性を育てるための革新的な取り組みを始めました。それが「自律的に人生を切り拓く意欲と能力の育成」をコンセプトとした「プロジェクトK」です。2004年度から始まったこの人材育成プロジェクトの成果やビジョンをはじめ、金城学院大学が目指している方向について、就任2年目を迎えられた柏木哲夫学長と、プロジェクトKの推進リーダーであり学生部長でもある宗方比佐子教授にお話を伺いました。

Contents

創刊記念 インタビュー

柏木哲夫×宗方比佐子

総会報告

研究トピックス

課外活動トピックス

information

Bridge

KINJO GAKUIN UNIVERSITY
Parents' Association Report vol.1



Cover Photo

Barcelona Chair

バルセロナチェア (1929年)

DESIGNER:

Ludwig Mies Van Der Rohe

ルードヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ

ドイツ生まれのアメリカ人建築家。ガラスと鉄骨からなる高層建築で知られる近代巨匠の一人で、「フルノ別荘」やニューヨークの「シーグラムビル」など数々の名作を残し、中でも1960年代後半の最晩年作「新ナショナル・ギャラリー」は、戦後西ベルリンの代表的な建築物の一つとなっている。建築家として活躍する傍ら、アメリカイリノイ工科大学の建築部長やドイツの造形学校バウハウス第3代目で最後の校長を務めるなど、後進の育成にも尽力を注いだ。「バルセロナチェア」は、1929年のバルセロナ万博・ドイツパビリオンに訪れた、スペイン・アルフォンソ国王夫妻臨席のために作られたもの。クロスするラインは剣の交差をイメージしたもので、力強い王位を象徴。細部にわたる完璧さ、そして美しいフォルムを持つこのデザインは20世紀を代表する不朽の名作として、現在でも高く評価され続けています。

2005年度新設校舎W9・W10竣工記念
父母会寄贈品

ごあいさつ

今年度父母会長をさせていただくことになりました小田井といいます。よろしくご協力の程をお願い申し上げます。

さて、金城学院大学は、2005年度より念願の理系学部である薬学部を開設したり、2004年度には就職支援の強化に向けて「プロジェクトK」(KはKinjoのK)を始動したりなど、新しい時代に向けて大きな一歩を踏み出しました。大学の教育・研究活動や学生たちの成長を支援するため、さまざまな助成活動を行ってきた父母会としても、これを機に会員間のコミュニケーションや助成体制をより一層強化していきたいと考えており、その一環として、父母会会報「Bridge」(ブリッジ)を発行する運びとなりました。本誌を通して父母会の活動内容や大学の現状をお伝えし、会員間での情報の共有化を図っていくとともに、会員の皆様方のご意見・ご要望をお伺いし、父母会の活動に活かしていきたいと考えております。また、お預かりした貴重な会費の使途を明確にお知らせし、皆様方のご理解を深めてまいります。学生たちの有意義なキャンパスライフを実現するために、高度な教育・研究環境の整備はもちろんのこと、施設や課外活動の充実、就職に向けた積極的な取り組みなど、あらゆる方面に目を向け、父母会としての責務を会員の皆様方と一緒に考えていきたいと思っております。今後とも、父母会活動へのご理解と積極的なご参加をお願い申し上げます。

金城学院大学父母会 会長

小田井 博茂

日頃は大学の教育のために、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。大学は2005年4月より、薬学部を加え、5学部の総合大学としての新しいスタートをきりました。新しい校舎にふさわしい、すばらしい椅子を父母会よりお贈り下さり、ありがとうございました。父母会のお支えにより、学生の教育の充実と教員の研究の推進が可能になっていることをうれしく思っております。特に教員の海外における研究などを父母会がお支え下さっていることに対して、学長として、紙面をお借りして、お礼を申し上げます。今年から新しく、父母会からのご協力で「地区別懇談会」を始めることに致しました。一回目の開催地は浜松です。こちらから出向いて、大学のご案内をし、ご父母の質問に応じ、種々ご相談にもものらせていただくという企画です。また、この度、新しい試みとして、「Bridge」が発行されることになりました。大学が目指している教育内容、特に力を入れていること、父母会の方々に必要と思われるお知らせなどが掲載される予定です。創刊号には学生部長の宗方比佐子先生と私のインタビューというかたちで、大学全体で力を入れているキャリア支援プログラムである「プロジェクトK」を中心に、現在、大学が目指している教育の内容についてまとめました。この「Bridge」がその名のとおり父母会と大学をつなぐものとなることを願っています。

金城学院大学 学長

柏木 哲夫

学長就任二年を振り返って

―学長に就任されて二年が経ちますが、振り返ってみていかがでしょうか。

柏木学長(以下敬称略/柏木：学生たちが非常に元気で明るいという印象を持っています。品のある学生が多いことも改めて実感しました。これは金城学院大学の伝統である人格教育の成果だと思います。

しかし、本学の教育方針はそれだけではありません。実社会で役立つ力、つまり実務教育も本学の使命です。実際、積極的に資格を取得するなど学生たちのキャリア志向は高まっており、父母の方々からも実務教育への要望が寄せられています。また教員たちも以前から、キャリア養成の重要性を感じていました。

伝統を重んじながらも、時代の流れにそった新しい発想や仕組みを取り入れてこそ、本学の成長があります。昨年度にスタートしたキャリア開発プログラム『プロジェクトK』も、本学がさらに成長するための第歩と言えるでしょう。

プロジェクトKについて

―そのプロジェクトKについてですが、二年が経った今、宗方先生はどのような成果を感じていらっしゃいますか。

宗方教授(以下敬称略/宗方：プロジェクトKは入学から卒業までの取り組みですので、本当の成果が現れるまでにはしばらく時間がかかると思われまます。しかし、二年を終えた時点で良い手応えを感じています。

プロジェクトKの授業が始まった頃の学生たちは、「この授業は何をやるんだろう...」と戸惑いをみせていました。それが、回を重ねるうちに学生たちの目が輝き、今では真剣な表情で授業を受けています。マナーや社会常識などへの関心は高く、担当の先生方も、「こんなにやりがいのある授業はない」と言っておられました。

柏木：私も学生にずいぶん評判が良いということも聞いています。今までにないユニークなプロジェクトだと思っていますし、Kノートやマナービデオなどのツールはとても具体性があると感じています。



これからの金城学院大学について

―大学として、ひとつの節目を迎えていると思いますが、これから目指す方向についてお聞かせください。

柏木：これまでの伝統を守ること、新しく生まれ変わるといふこと、そのどちらも大切だと思います。

昨年度に学長と理事長が変わり、今年度から薬学部がスタートし、プロジェクトKをはじめとする新しい動きが出てきています。そういう意味で、今、本学は新しいスタートを切ったと言っても過言ではないでしょう。本学のブランドの再構築も進め、「強く、優しく。」という新しいスローガンを策定しました。

今年の入学式ときに学生たちに言ったことですが、「これからの女性というのは、男女共生社会の中で、リーダーシップを取れる女性でなくてはならないし、本当の意味でのパートナーシップを結べる女性でないとけない」と思っています。おそらく、卒業生がリーダーシップを取つていく場面は、これからどんどん多くなれば取れませんが、その強さを身につけてほしいですね。一方、パートナーシップに関しては、「女性も男性と同じに」という男女平等を目指すことから、男性と女性がお互いの違いを認識し合い、その上でパートナーとして協力する男女共生社会を創造することが重要です。そのパートナーシップの基本になるのは、我々が培ってきた伝統的な「優しさ」だと思います。新しいスローガンである「強く、優しく。」という言葉は、リーダーシップとパートナーシップという二つに運動するのだと感じていますし、それが新しい我々の目指すべきところだと思っています。

―こうした取り組みは、他大学と比較してみるといかがでしょうか。

宗方：私の専門がキャリアに関する分野です。で、いろいろなところで話をする機会がありますが、非常に進んでいると驚かれます。全国的に見ても、ユニークな取り組みだと思えますね。

―マナーや社会常識は、本来なら家庭で育むべきという意見もありますが、

柏木：お子さまを預かった以上は、大学にも果たすべき役割があります。これは家庭での問題だからどうにもできない、というのではなく、大学としてできることはしっかりとやるべきでしょう。しかし、私たちがすべてをカバーできるものでもありません。プロジェクトKの趣旨や取り組み内容にご理解をいただいた上で、父母の方々にもご賛同いただき、ご家庭でも同じようなことをしていただくことが理想的な形だと思っています。

宗方：プロジェクトKのひとつの目標として、学生たちを希望する就職先へ送り出す、というものがあります。

しかし、就職活動を始めるにあたって急にマナーを良くしようとしても簡単にいきません。マナーの授業を学んだことをつねに実践し、日常生活の中でも、美しい立居振る舞いや言葉遣いなどを培っていただきたいと思っています。

社会常識にしても、勉強したことがすぐ身につくというものではありませんよね。ですから、日頃から社会について、ご家庭でいろいろ話し合えていただくということがとても重要になると思います。

―プロジェクトKに今後盛り込んでいくことを考えているプログラムなどはありますか。

宗方：個別のキャリアカウンセリングですね。就職活動全般に対する個別指導を行いたいと思っています。グループ単位でのガイダンスやワンポイントアドバイスはすでに実施していますが、最終的には個別のサポートが一番効果的ですので、早くそれを取り入れたいですね。

大変恵まれたことに、本学には優秀で経験が豊富な卒業生の方がたくさんいらっしゃいます。そういう方々に積極的にご協力いただけたら、本学ならではの強力な学生支援が実現すると

宗方：パートナーシップは本学の学生に馴染みがありそうですけど、リーダーシップとなると少し抵抗感を持つ学生や父母の方もいらっしゃるような気がしますが、学長はどう思われますか。

柏木：私は、女子大だからこそ女性のリーダーシップを育成できると思います。当然ですが、ゼミ、クラブ活動、大学祭など学内の活動すべてにおいて、女性が必ずリーダーになるわけですから、話が少し戻りますがプロジェクトKでも、リーダーシップを育むプログラムを取り入れていますよね。

宗方：プロジェクトKのプロケラムの中に「卒業後の仕事を考える」という科目があつて、その中に必ず管理職の話は入ってきます。それとは別に、私はリーダーシップ論という授業をやつていて、女性のリーダーについてお話しする時間をとっています。

確かに、社会のさまざまなシーンで女性がリーダーになる機会が増えていくと思います。それを見据えた上で、女子大という環境を活かしてリーダーシップを培っていくことは非常に重要ですね。

父母会へのメッセージ

―最後に、父母会の方々に一言お願いします。

宗方：今回、プロジェクトKをはじめとする学生支援活動を推進するため、多額な予算を組んでいただき、ありがとうございました。それは父母の方々の大学に対する期待と要望の表れであると受け止めています。

今後は、これまで以上に父母の方々の声をお聞きする機会を増やし、プロジェクトKや教育全体に反映させていきたいと思っています。

柏木：学長として父母会および会員の皆様から感謝していることは、教育や教員の研究のために力強い援助をいただいていることです。それを学生たちに還元できるように、これからも努力していきたいと考えています。

今年度から、遠方の父母の方々にも大学の現状や今後の展望を「理解いただくために、地方での父母懇談会を始めさせていただきます。ぜひご参加いただきます。活発な交流ができることを期待しています。これからもよろしくお願いいたします。



思います。プロのキャリアカウンセラーと一緒に卒業生の方々にも、学生たちの目標や道しるべとしていろいろなアドバイスをさせていただきたいと思っています。

柏木：就職活動の支援に関しては、社会全体の流れや就職の厳しさなど、いわゆる社会の実情を学生一人ひとりに認識させることも大切です。プロジェクトKだけでなく、全体の教育の中で学生に理解させる必要がありますよね。

宗方：その通りです。そのため、二年次に、就職への意識づけを行う必修授業を設けており、二年次には授業に加えてキャリアガイダンスがあります。そして、三年次以降もガイダンスや授業など、いろいろな機会でお話しするようにしています。

―社会に出て働くことだけが女性のキャリアではないと思うのですが、その辺りについてはいかがでしょう。

柏木：ひと昔前と比較すると、今は就職志向の強い学生が多いです。しかし、内的キャリアという、良い家庭人になるということも視野に入れて授業を進めたいと願う父母の方もいらっしゃいます。私もそれは重要なことだと思いますが、宗方先生はどう思われますか。

宗方：まず、二年次に、就職や仕事だけではなく、「人生をどのように過ごすか」といったライフデザインについて考えます。その他にも「女性の生き方を考える」という科目もあります。これは、結婚や子育ての中で遭遇しやすい問題について、どのように対応していけばいいかというようなことを中心に、女性の生のうちに出るような問題をテーマとした科目です。どの授業も仕事と家庭のどちらかということではなく、これから両方に関わるであろうという前提を崩さずに講義を進めています。



Tetsuo Kashiwagi

Hisako Munekata

学長 柏木哲夫 × 宗方比佐子

学生部長/人間科学部 心理学科社会心理学専攻 教授

「リーダーシップを取れる強さと、パートナーシップを結べる優しさを身につけてほしい。」

柏木哲夫プロフィール 1965年、大阪大学医学部卒業。

同学精神神経科に勤務し、3年間にわたり心身医学の臨床と研究に従事する。その後ワシントン大学へ留学し、3年間、アメリカ精神医学の研修を積む。1972年に帰国し、淀川キリスト教病院に精神神経科を開設するとともに、ターミナル(末期)ケア実践のためのチームを結成。同病院にて内科医として研修を受けた後、1984年にホスピスを開設し副院長、ホスピス長を務める。その後、大阪大学人間科学部教授を経て2003年に金城学院大学人間科学部教授に就任し、2004年から本学学長を務める。これまで日米医学功労賞(1994年)、朝日社会福祉賞(1998年)、保健文化賞(2004年)などを受賞し、ターミナルケアをテーマとした著書も多数出版。

宗方比佐子プロフィール 1985年、名古屋大学大学院 教育学研究科教育心理学専攻修了。

社会心理学、職業心理学を専門分野とし、女性のキャリア発達や職場のハラスメント、大学生の職業選択などの研究に取り組む。2002年に金城学院大学に就任し、現在、人間科学部心理学科社会心理学専攻教授および2004年より学生部長を務める。経営行動科学学会理事(2004.4-)や名古屋市男女共同参画審議会会長(2005.2-)などに就いて学外でも活躍し、多くの著書も出版。

「プロジェクトKは、学生一人ひとりの未来づくりをサポートします。」

2004年度は、新校舎が竣工されるということで特別に「新校舎設備充実費」を計上しましたが、その予算を利用し、教材用として、デザイナーズチェアを12脚設置しました。また、「卒業記念事業費」は、リリーウエスト北側の庭園への整備費用に充てました。

2005年度では、キャリア形成を目的とする「プロジェクトK」をはじめ、大学の様々な取り組みを積極的に支援するため、「学生教育助成費」「環境整備助成費」などの助成金を新たに設置。学生たちの教育環境の一層の充実に向け、有意義な運用に努めています。

◎収入の部	2004年度収支決算			2005年度収支予算			
	項目	決算額	予算額	増減	2005年度予算額	2004年度予算額	増減
前年度繰越金		26,886,750	26,886,750	0	24,414,487	26,886,750	△ 2,472,263
入会金 (@7,000円)		8,736,000	8,736,000	0	9,681,000	8,736,000	945,000
会費 (@5,000円)		23,030,000	23,355,000	△ 325,000	25,555,000	23,355,000	2,200,000
雑収入	預金利息	4,121	10,000	△ 5,879	10,000	10,000	0
合計		58,656,871	58,987,750	△ 330,879	59,660,487	58,987,750	672,737

◎支出の部

項目	2004年度収支決算			2005年度収支予算			
	決算額	予算額	増減	2005年度予算額	2004年度予算額	増減	
父母会活動費 ※1	入学式・卒業式関係、慶弔費、父母会総会費、会報発行費、事務管理料	4,867,852	6,000,000	△ 1,132,148	8,200,000	6,000,000	2,200,000
地区別懇談会助成費				1,000,000		1,000,000	
委員会費	2005年度より中止	1,132,945	1,850,000	△ 717,055	0	1,850,000	△ 1,850,000
学生指導助成費	学生引率旅費等助成	1,868,578	2,500,000	△ 631,422	2,500,000	2,500,000	0
教育研究助成費 ※2	教材作成助成、学科運営助成、特別研究助成	8,042,013	8,058,000	△ 15,987	9,534,000	8,058,000	1,476,000
事務研修助成費	事務の研修等助成	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0
留学助成費	海外出張等旅費助成	1,660,940	4,150,000	△ 2,489,060	2,550,000	4,150,000	△ 1,600,000
学生教育助成費	就職対策助成、ビデオ等作成助成			7,600,000		7,600,000	
学生生活助成費 ※3	学生会活動助成、課外活動助成等	6,363,861	7,000,000	△ 636,139	7,900,000	7,000,000	900,000
卒業記念事業費		3,990,000	4,000,000	△ 10,000	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000
新校舎設備充実助成費	2004年度だけの特別な予算	4,000,000	4,000,000	0	0	4,000,000	△ 4,000,000
環境整備助成費	校地等環境整備助成			1,000,000		1,000,000	
周年事業積立金 ※4		1,000,000	1,000,000	0	1,500,000	1,000,000	500,000
学生施設建設助成積立金				3,000,000		3,000,000	
雑費		316,195	1,300,000	△ 983,805	1,000,000	1,300,000	△ 300,000
予備費		0	18,129,750	△ 18,129,750	10,876,487	18,129,750	△ 7,253,263
次年度繰越金		24,414,487		24,414,487			
合計		58,656,871	58,987,750	△ 330,879	59,660,487	58,987,750	672,737

◎特別会計の部

項目	組入額
周年事業積立金	3,000,000

プロジェクトKをバックアップ（学生教育助成費）

プロジェクトKに関する教材として、本学独自に、Kノート、マナービデオ、Kウェブを作成しております。Kノートは、自分を発見し、自分を成長させるためのものです。マナービデオは、社会人として必要な基本的マナーを身につけられるビデオで、基礎編、学外編、インターンシップ編、就職試験編が収録されています。これらは、1年生のオリエンテーション時に全員に配付されます。また、Kウェブでは、自分の適性や職業意識を診断でき、それを保存して自分の成長を分析することができます。Kノート、マナービデオは昨年度より入学生に配付しておりますが、3年生以上の方も希望される方にお渡ししています。お気軽に学生支援部就職担当までお問い合わせください。



バイダー

Kノート (2005年度用)



マナービデオ

総会報告

去る2005年6月1日(水)大学にて父母会総会が開催され、

会費・会則の一部変更、2004年度の事業報告・決算、

2005年度の事業計画・予算などが承認されました。

決算・予算は次頁をご覧ください。

◎2004年度事業報告

2004年4月3日(土) 大学説明会 役員会	入学式後を利用し、入学生の父母対象に下記の説明を行いました。 【大学説明】◎キリスト教について ◎学生生活について ◎教務上の諸事項について ◎キャリアアップ講座について ◎大学父母会の活動の協力について 【役員会】◎今年度活動計画の概要の説明 ◎大学新役職者との懇談
---------------------------------------	---

2004年5月11日(火) 役員会 歓送迎会	【役員会】総会審議事項の確認 ◎2003年度事業報告 ◎2003年度会計報告 ◎2004年度役員・委員選出 ◎2004年度事業計画 ◎2004年度予算 【歓送迎会】新旧役員及び大学役職者との懇談を兼ねて。
---------------------------------------	--

2004年6月2日(水) 総会	【総会】◎2003年度事業報告 ◎2003年度会計報告 ◎2004年度役員・委員選出 ◎2004年度事業計画 ◎2004年度予算 【教育懇談会】「大学の現状報告資料」に基づき学長から概要の説明。 【懇談会】クラス担任との懇談
----------------------------	--

2004年9月21日(火) 教育懇談会	父母会役員から大学に対して日頃感じていること等、発題をした後、大学役職者と意見交換をした。
--------------------------------	---

2004年9月25日(土) 役員会	【議題等】◎委員会の運営等の最終確認 ◎金城学院後援会の設置について
------------------------------	---------------------------------------

2004年11月4日(木) 委員会	【講演会】演題「音楽と心のいやし」 講師 栗林 文雄氏(名古屋音楽大学教授)
------------------------------	--

2004年12月9日(木) 定期懇談会	【議題等】◎大学の近況報告 ◎今後の父母会活動について
--------------------------------	--------------------------------

2005年2月12日(土) 役員会	【議題等】◎今後の父母会活動について ◎新校舎記念品について ◎卒業記念品について
------------------------------	---

2005年3月18日(金) 役員会	【議題等】◎今後の父母会活動について ◎新校舎記念品について
------------------------------	-----------------------------------

◎来年度入学生より会費を改定します。

「プロジェクトK」をはじめとする大学の教育活動や学生活動を支援、また、就職への支援等を強化するため、来年度入学生から会費を半期2,500円から月額1,000円に変更することを総会において承認しました。

◎父母会会則を一部変更しました。

薬学部新設による学生数の増加に伴い、父母会運営をより円滑にするために、役員を1名増加する等の会則の一部変更を承認しました。

- 第4条(役員等及び任務)第2号の副会長4名を5名に変更する。
- 第4条(役員等及び任務)第4号の委員各学級2名を各学科学年2名に変更する。

◎父母会初の地区別懇談会を浜松にて開催いたします。(詳細は裏面をご覧ください)

大学と父母、または父母間でのよりよいコミュニケーションを図るため、浜松にて地区別懇談会を開催します。今年度から試験的に開催いたしますが、今後、愛知県内を含め5,6箇所で開催していきたいと考えています。父母会では「地区懇談会助成費」を新たに設けて、この活動を支援していきます。

◎2005年度事業計画

2005年4月4日(月) 大学説明会 役員会	入学式後を利用し、入学生の父母対象に下記の説明を行いました。 【大学説明】◎キリスト教について ◎学生生活について ◎教務上の諸事項について ◎キャリアアップ講座について ◎大学父母会の活動の協力について 【役員会】◎大学新役職者との懇談
---------------------------------------	---

2005年5月30日(月) 16:30～ 役員会	【議題等】総会審議事項の確認 ◎2004年度事業報告 ◎2004年度会計報告 ◎父母会会則の一部変更 ◎2005年度役員・委員選出 ◎2005年度事業計画 ◎2005年度予算
---	---

2005年6月1日(水) 総会 歓送迎会	【総会】◎2004年度事業報告 ◎2004年度会計報告 ◎父母会会則の一部変更 ◎2005年度役員・委員選出 ◎2005年度事業計画 ◎2005年度予算 【教育懇談会】「大学の現状報告資料」に基づき学長から概要の説明。 【懇談会】アドバイザー(クラス担任)との懇談 【歓送迎会】新旧役員及び大学役職者との懇談を兼ねて。
-------------------------------------	---

2005年9月21日(水) 15:00～ 教育懇談会	父母会役員と大学役職者との懇談。
---	------------------

2005年9月24日(土) 地区別懇談会 (浜松会場)	【議題等】◎大学の近況説明 ◎教学上の説明 ◎学生生活上の説明 ◎個別懇談(成績関係、就職関係、その他) ※詳細は本会報誌の裏面にてご案内しております。
--	--

2005年12月1日(木) 定期懇談会	【議題等】◎大学の近況報告 ◎今後の父母会活動について
--------------------------------	--------------------------------

2006年2月9日(木) 役員会	【議題等】◎今年度父母会活動の総括 ◎卒業記念品について
-----------------------------	---------------------------------

2006年3月18日(土) 役員会	【議題等】◎次年度役員選出について ◎次年度事業日程について
------------------------------	-----------------------------------

※1.父母会活動費の増額は、会報発行費の増額による。※2.教育研究助成費の増額は、教材作成費の増額、教員の増員による。※3.学生生活助成費の増額は、より一層の充実のため。

※4.周年事業積立金の増額は、より一層の充実のため。

大学の研究から、学生のクラブ・サークルまで。
父母会はさまざまな活動をサポートしています。

研究トピックス

父母会留学助成を受けて

カナダで受けた 温かいおもてなしと クールな体験

文学部言語文化学科 教授

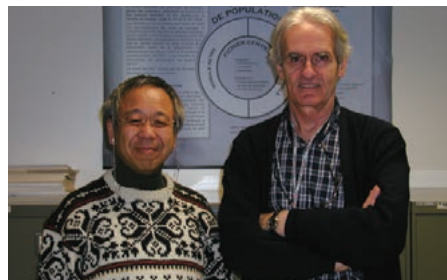
丹羽 卓

◎担当科目
バイリンガリズム
マルチカルチュラルイズム

現在、本学の柴田道子教授、北原ルミ講師などと一緒にジェラルド・ブシャー『新世界のネイションと文化の生成』（仮邦題）という大著を翻訳中です。カナダで最も権威あるとされる「カナダ総督賞」（2000年）を受賞した、学問的に高く評価されている書物です。それだけに難解な箇所も少なくなく、翻訳作業を進めるにあたって、カナダまで足を運び、著者と直接意見を交換したいと願っていました。それが2004年度父母会留学助成によって可能になったことに心より感謝しています。

2004年12月末、到着したのは厳寒のカナダ、しかも日本人がめったに訪れることのないケベック州シクミ、最高気温零下18度の世界でした。でも、そこに暮らす人々の心はとても温かく、ブシャー教授ご夫妻も2年半ぶりの再会を本当に喜んでくださいました。教授は様々な質問に誠実に真剣に答えくださり、とても貴重な時を持つことができました。その後、雪と氷の道をピュンピュン車で飛ばして（恐怖の体験）、白人

入植地の最北端というところまで連れて行ってくださるなどという望外のサービスまで。そんな中、面白い体験をしました。持参したデジタルカメラで写真を撮ろうとしても、スイッチが押せません。新品の電池のはずなのに...気温が低すぎると電池は動かなくなることが、後でわかりました。室内では問題なく撮影できましたから。来年初頭の出版に向けて、現在鋭意翻訳に励んでいます。



ジェラルド・ブシャー氏と

学生活動助成を受けて

課外活動トピックス

この度は、こうして父母会の皆様に日頃の感謝の気持ちを伝える機会を与えられ、嬉しく思います。金城学院にハンドベルクワイアが誕生したのは今から35年前、1970年のことです。当時、金城学院中学校の音楽宣教師をしていたMerle Irwin Kelly先生がアメリカの支援を受けてハンドベルを購入したことにより、日本で最初のハンドベルクワイアがここ金城学院に結成されました。今年結成30年を迎える大学ハンドベルクワイアは、Kelly先生の「ハンドベルは神様への讃美と人々の幸せのために用いる楽器である」という精神のもと活動しています。現在メンバーは30名で1・3年、2・4年の2つのグループに分かれ、クリスマスコンサート、卒業コンサートなどの定期演奏会をはじめ、学内では伝道週間における讚美礼拝やクリスマス礼拝、学外

では県下キリスト教会や高齢者施設などでの世界大会への参加、奉仕演奏、またイギリス・オーストラリア、韓国などで開催される世界大会への参加、アメリカ、カナダにおけるディレクターズセミナーでの演奏など、国内にとどまらず国外でも積極的に演奏活動を行っています。私どもの活動は多くの方々の支えによって成り立っています。今後も父母会の皆様から頂いた奨励金を支えの一つとし、より良い演奏をお届け出来ますよう努力していきたいと思えます。これからもご支援の程をお願い致します。



2005.2.23 電気文化会館にて卒業コンサートを行いました

設立35年を迎える ハンドベルクワイア

ハンドベルクワイア部長
現代文化学部情報文化学科4年
松岡えり

information

キャリアアップ講座

現代の社会では、大学の卒業資格だけでなく、キャリア・アップとしての様々な資格が社会的に評価されるようになり、就職活動においても有力な要素となっています。そのため、本学では、資格取得をバックアップするため、学内外の講師を招き、在学生向けのキャリア・アップ講座を開催しています。ぜひご参加ください。ようご案内申し上げます。詳細は、本学エクステンションプログラム事務室までお問い合わせください。

地区別懇談会開催「浜松会場」

大学の現状や今後の展望をご理解いただくために、今年度より地区別懇談会を計画いたしました。大学の近況、教務、学生生活に関する説明の後、学部長、教務部長、学生部長の他、浜松地区の卒業生との懇談の時間を設けております。今年度は、9月24日（土）に浜松のオークラアクトシティホテル浜松にて開催する予定です。この地方の方々には、あらためてご案内いたしますので、ぜひご参加ください。